



筑波大学 概要



建学の理念

筑波大学は、基礎および応用諸科学について、国内外の教育・研究機関および社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。

従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることをその基本的性格とする。そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能および運営の組織を開発する。さらに、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

ブランドスローガン

欧文

IMAGINE THE FUTURE.

開学からの理念である開かれた大学として、教育、研究をはじめあらゆる面で想像して未来を開く視点から、筑波らしさをIMAGINE THE FUTURE. と表現しました。

校章



筑波大学の校章「五三の桐葉型」は、1903（明治 36）年に改定された東京高等師範学校生徒徽章に始まり、1949（昭和 24）年制作の東京教育大学学生バッジにも受け継がれました。1974（昭和 49）年本学評議会において「紋章については東京教育大学の伝統を引き継ぎ」桐の葉とすることが了承されました。「五三の桐」と呼ばれる図形には、我が国の伝統的な紋章一般がそうであるように多くのヴァリエーションがありますが、本学の校章は花の部分のみ「蔭」（アウトライン）で表される独特のものです。

和文

開かれた未来へ。

指定国立大学としての本学の構想 — 地球規模課題を解決する「真の総合大学」へ —

2022年4月1日より、本学は指定国立大学法人として新たな一歩を踏み出しました。指定国立大学法人とは、我が国の大学における教育研究水準の向上とイノベーション創出を図るため、文部科学大臣が世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を指定するものです。指定を受けた大学は、国内の競争環境の枠組みから出て、国際的な競争環境の中で、世界の有力大学と伍していくことが求められ、社会や経済の発展に貢献する取組の具体的成果を積極的に発信し、国立大学改革の推進役としての役割を果たすことが期待されます。本学は、本学の目指す大学像である、地球規模課題を解決する「真の総合大学」の実現に向けて、“Beyond the borders.”をスローガンに3つの目標掲げています。

1. 学問分野の壁を超える研究力強化
2. 国境や組織の壁を超える人材育成
3. 地球規模課題の解決に資する研究成果の社会実装

本学は、指定国立大学法人として国立大学改革を先導する役割を期待されており、この期待に応えることが我が国の高等教育、ひいては我が国の発展の原動力となると確信しています。全世界が協働と競合の舞台であることを自覚し、構想の実現に取り組んでまいります。

指定国立大学法人としての本学の構想については、文部科学省のウェブサイトでご覧になれます。▶
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/houjin_00015.htm



社会的価値創造事業

IMAGINE THE FUTURE. Forum の概要 (2027年度竣工予定)

社会課題の積極的な解決に向け、真のニーズドリブン型産学共同研究を推進し、社会変革にも繋がる共創的イノベーションの創出を図る等、本学に蓄積されたインテリジェンスやネットワーク、人材等のリソースやバリューの社会的価値への転換を目指し、新たな社会的価値の創造に取り組むための施設を整備します。



建物イメージ

Sport Complex for Tomorrow の概要 (2026年度竣工予定)

本学が有する世界最先端のスポーツ科学や、障がい者スポーツの知見等を活用し、国内外のアスリートやスポーツ医科学研究者に対して実践的な競技力強化や研究等の機会を提供するとともに、共生社会の実現に向けた機会の創出や、障がい者を含む体育スポーツ分野における実践的な研究拠点の構築、世界最先端の研究成果の社会実装を目指し、スポーツによる先端的教育研究成果を活用した社会的課題の解決などを目的としたスポーツ複合施設を整備します。



建物イメージ

未来社会デザイン棟の概要 (2026年3月供用開始)

本学が目指す「社会課題を解決する研究と未来を創り出す人材育成」を促進するためのチュートリアル教育の実践の場として活用するほか、学生が新たな発想を生み出し、学生文化の発信及び地域社会との交流を促進させる場となる施設です。



外観イメージ



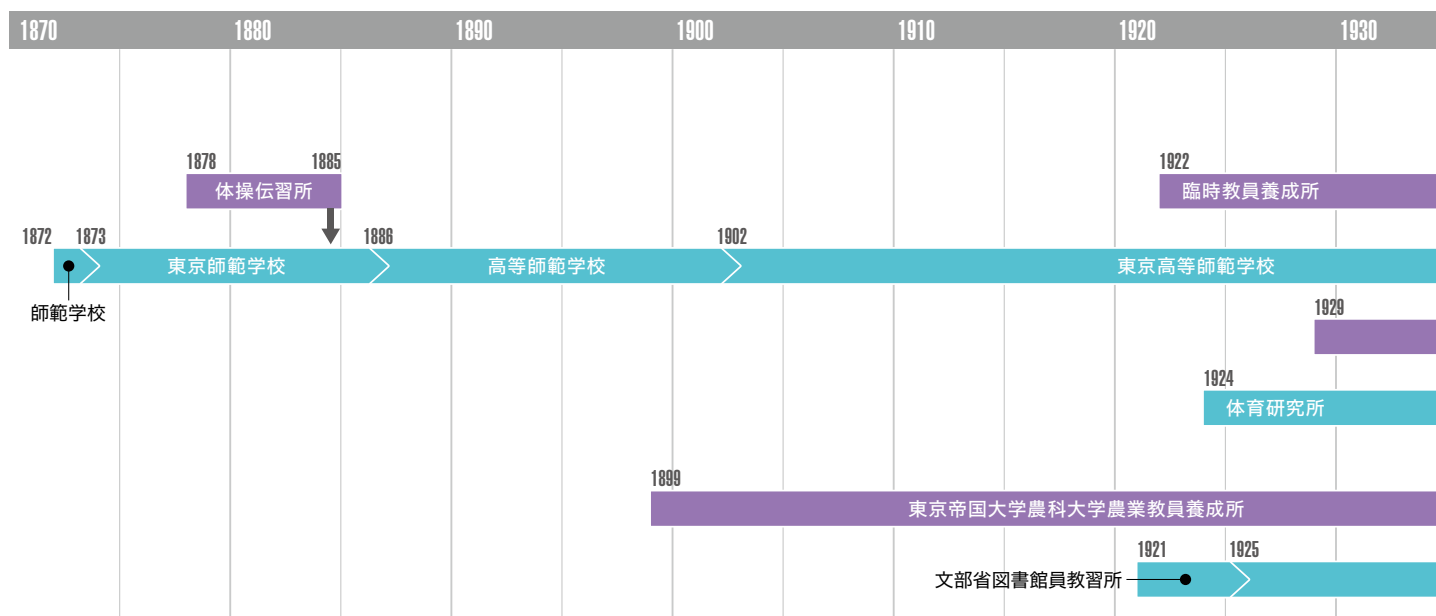
内観イメージ

筑波大学の歴史



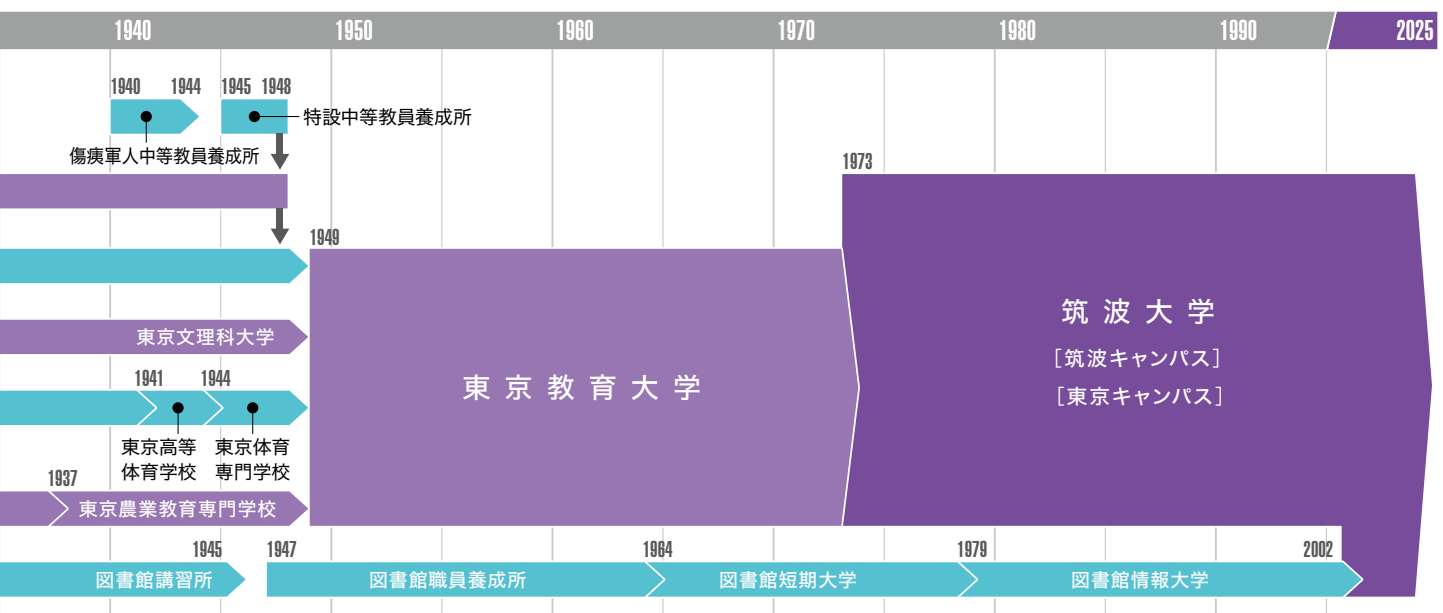
沿革

筑波大学は、東京教育大学の移転を契機に、そのよき伝統と特色を生かしながらも、大学に対する内外からのいろいろな要請にこたえるため、わが国ではじめて抜本的な大学改革を行い、1973年（昭和48年）10月に「開かれた大学」「教育と研究の新しい仕組み」「新しい大学自治」を特色とした総合大学として発足しました。本学は大学改革の先導的役割を果たしつつ、教育研究の高度化、大学の個性化、大学運営の活性化など、活力に富み、国際競争力のある大学づくりを推進しています。



筑波大学と研究学園都市

筑波大学がある筑波研究学園都市は、わが国最大の最先端研究開発拠点です。国立の研究機関の約 3 割に当たる 30 以上の研究機関が集積し、約 2 万人の研究者が研究活動を行っています。筑波大学はその中核的な役割を担っており、イノベーションを生み出す新たな産学官連携拠点の創造を目指しています。



数字で見る筑波大学

開 学

1973 年 10 月 1 日

※各数値は、2025 年 5 月 1 日現在

学 生 数

16,683 名

■ 留学生受入 2,340 名 ■ 国際交流協定 383 協定 (68 か国・地域)

《学 群》

■ 10 学群 ・ 23 学類 ・ 2 学位プログラム ・ 1 総合学域群

9,573 名 (うち女子 3,739 名)

《大学院》

■ 大学院 3 学術院 ・ 6 研究群 (6 専攻 ・ 56 学位プログラム)

7,110 名 (うち女子 2,541 名)

教 職 員 数

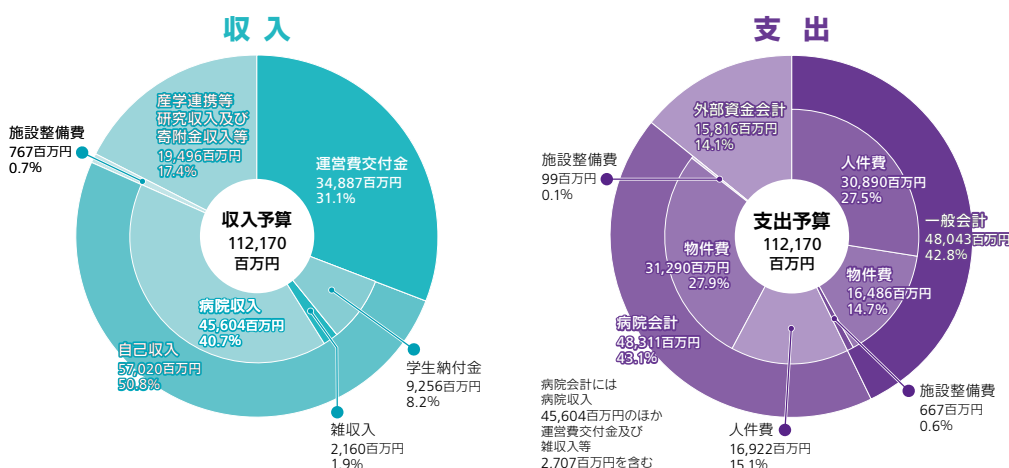
5,504 名 うち女性 2,835 名 外国人 171 名

■ 教員組織 11 系 教員 1,777 名

附 属 学 校

11 校 ・ 児童・生徒数 3,937 名 ・ 教員 539 名

財 政 基 盤



面 積

土地面積 12,646,569 m² (附属学校除く)

■ 筑波地区面積は、単一キャンパス国内第 2 位の広さ (東京ドーム約 55 個分)

■ 建物面積 985,619 m² (職員宿舍除く)

附属図書館

図書館数 **5**

■ 蔵書数 (2025年3月31日現在)

図書 和書 **1,709,639** 冊 洋書 **1,048,667** 冊 電子ブック **42,737** タイトル

■ 利用者数 (2024年度実績)

入館者総数 **684,857** 人 **1,985** 人/日

貸出利用者数 **88,625** 人 **257** 人/日

貸出冊数 **228,236** 冊 **662** 冊/日



附属病院

2024年度
いずれも延べ人数

■ 外来患者数 **432,884** 人

■ 入院患者数 **257,697** 人

■ 救急患者数 **7,534** 人



ノーベル賞 受賞者

■ 物理学賞



所蔵：朝永記念室

1965 年

朝永 振一郎

東京教育大学元学長
東京教育大学名誉教授

「量子電気力学、とくに超多時間理論
およびくりこみ理論の展開」

■ 物理学賞



1973 年

江崎 玲於奈

本学元学長
本学名誉教授

「半導体内及び超伝導体内における
トンネル現象に関する実験的発見」

■ 化学賞



2000 年

白川 英樹

本学名誉教授

「導電性ポリマーの発見と開発」

オリンピック・パラリンピックにおける総獲得メダル数

■ オリンピック※ **26** 個 **21** 個 **22** 個

■ パラリンピック※ **19** 個 **24** 個 **26** 個

計 **138** 個

※本学（前身校を含む）および附属学校の在学学生・卒業（修了）生・教職員が獲得した数

組織

組織（国内）

教育組織

学術院

- 人文社会ビジネス科学学術院
 - 人文社会科学研究群
 - ビジネス科学研究群
- 理工情報生命学術院
 - 数理物質科学研究群
 - システム情報工学研究群
 - 生命地球科学研究群
- 人間総合科学学術院
 - 人間総合科学研究群

グローバル教育院

総合学域群

学群 10学群

- 人文・文化学群
- 社会・国際学群
- 人間学群
- 生命環境学群
- 理工学群
- 情報学群
- 医学群
- 体育専門学群
- 芸術専門学群
- 学際サイエンス・デザイン専門学群（マレーシア校）

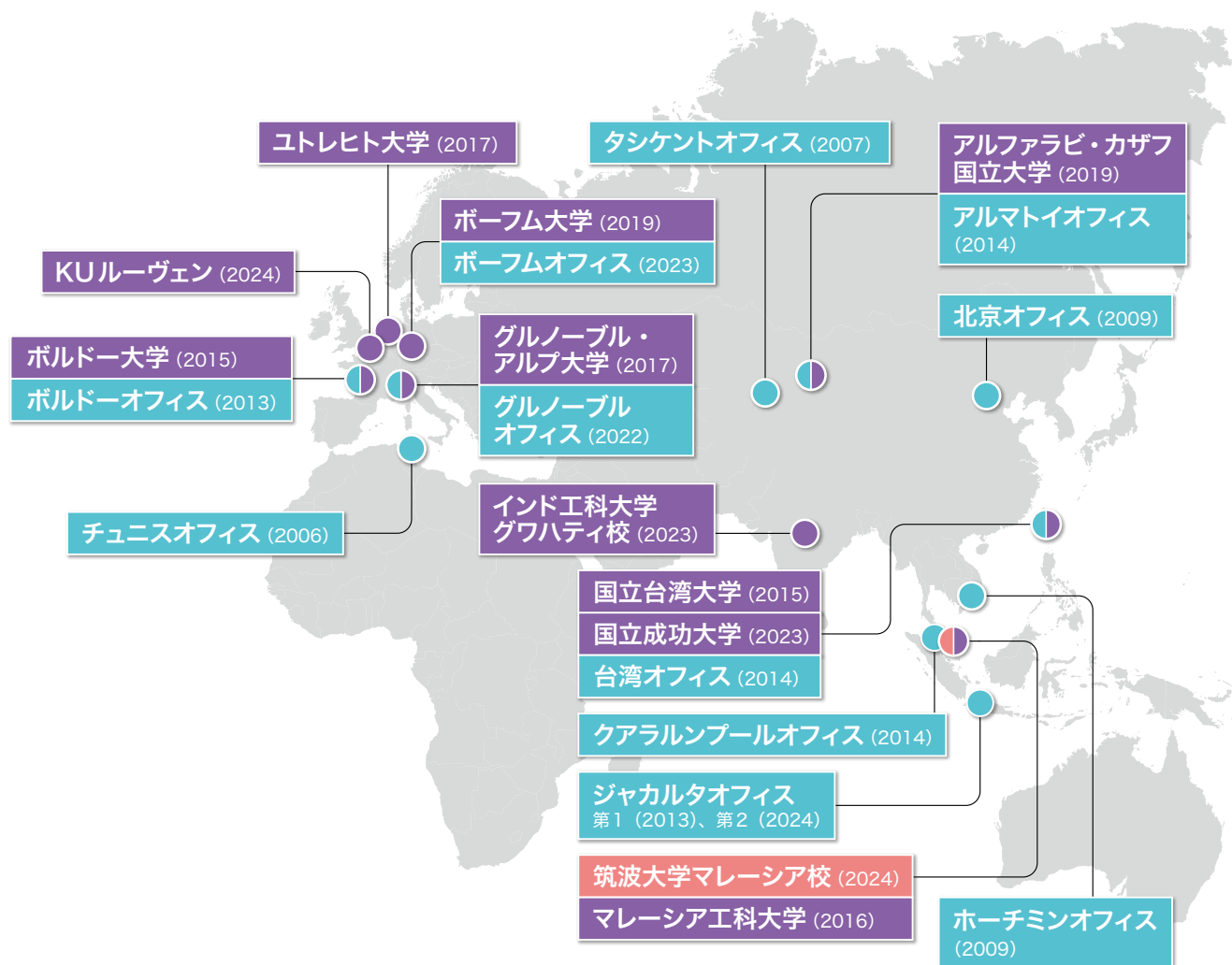
附属学校 11校

- 附属小学校
- 附属中学校
- 附属駒場中学校
- 附属高等学校
- 附属駒場高等学校
- 附属坂戸高等学校
- 附属視覚特別支援学校
- 附属聴覚特別支援学校
- 附属大塚特別支援学校
- 附属桐が丘特別支援学校
- 附属久里浜特別支援学校

教育等センター群 4組織

- グローバルコミュニケーション教育センター
- アドミッションセンター
- 保健管理センター
- オリンピック研究教育センター

組織（海外）



※()は海外拠点設置年または Campus-in-Campus 協定締結年

研究組織

系（教員組織）

- 人文社会系
- ビジネスサイエンス系
- 数理物質系
- システム情報系
- 生命環境系
- 人間系
- 体育系
- 芸術系
- 医学医療系
- 図書館情報メディア系
- 学際研究系

先端研究センター群 全20組織

- RS（世界先導研究拠点） 1 組織
- R1（世界級研究拠点） 2 組織
- R2（全国級研究拠点） 10 組織
- R3（重点育成研究拠点） 7 組織

研究支援センター群

- 研究基盤総合センター
- 学術情報メディアセンター

開発研究センター 全11組織

その他施設

- 高細精医療イノベーション研究コア
- つくば臨床医学研究開発機構
- オープンイノベーション国際戦略機構
- ヒューマン・スマートシティ研究機構

附属施設

附属図書館

附属病院

海外拠点

14オフィス（12か国・地域に設置※）
※一部 CiC パートナー校内

国際交流事業の一環として、教育研究活動の国際連携を推進するために、海外オフィスを設置しています。現在、12の国・地域にオフィスがあり、それぞれのミッションに基づいて、留学生の確保、派遣学生の支援、関係大学・機関等との学術交流活動の促進・支援、同窓会ネットワークの構築等、さまざまな活動を実施しています。

Campus-in-Campus

10か国・地域 13大学

Campus-in-Campus (CiC) 構想とは、本学と世界中のパートナー大学とでキャンパス機能を相互に共有し、学生や教職員が自由に教育研究交流できる環境を実現することを目指すものです。

カリフォルニア大学
アーバイン校（2016）

アーバインオフィス（2014）

オハイオ州立大学（2018）

サンパウロ大学（2016）

サンパウロオフィス（2015）



学問を幅広く修めることを通して、ものごとの本質を理解し多角的にとらえる基礎的な力を
 培います。自由で何度でも挑戦できる環境の中で、多様な価値観をもつ他者とともに、倫
 理観をもって、ひたむきに課題解決の最善策の模索と実践ができる人材を育成します。

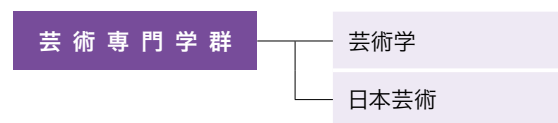
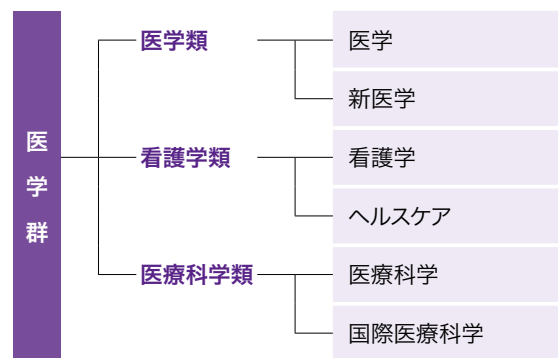
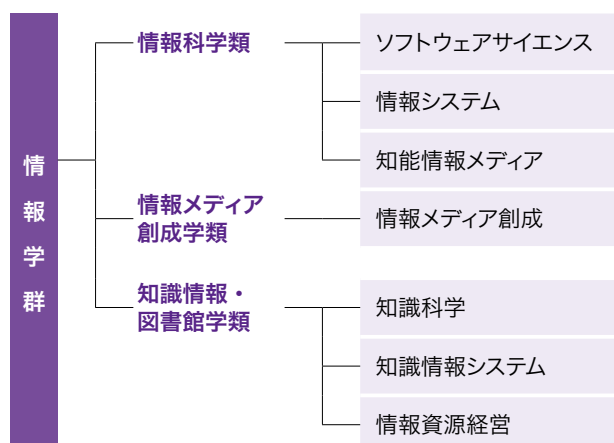
筑波大学は、多様な学問分野をもつ「真の総合大学」であることを強みに、さまざまな学問の基盤となる知識をもち、
 新たな分野の創造に挑戦しつつ他者と協調しながら自律して社会を共創できる能力をもった人材をこれまで以上に育てて
 いきたいと思っています。これらは、複雑性が増すこれからの時代を生き抜くために必要不可欠な資質や能力です。学生
 個々の課題意識の本質を浮き彫りにしそれを深化させる本学独自の学位プログラムによって、それらを培いたいと考えて
 います。筑波大学は学修のみならず学生の起業や留学など、自分の夢を叶える挑戦を強力に支援し、多様な学生が安心
 して自己実現に挑める環境を構築します。加えて、学び直しや生涯学習など、働き方の変化とともに変容する社会的なニ
 ーズに応える教育環境の構築も加速させます。

学士課程（学群／学類）

学群とは、学士課程の教育を行う組織です。専門領域を中心としていくつかの学問分野を総合した形で構成されています。また、
 専門的な一貫教育を行う専門学群が置かれています。

学類とは、学群に置かれ学生の教育に責任を持つ組織です。学群の学生は、学群・学類に所属することになります。





総 合 学 域 群[※]

※ 入学後 1 年間の多分野にわたる学びを経て、本人の志望と成績に基づき、2 年次より学類・専門学群（体育専門学群及び学際サイエンス・デザイン専門学群を除く）へ移行

大学院課程（学術院／研究群・専攻／学位プログラム）

学術院・研究群は、大学院の課程の教育を担います。学術院は、学生が高度な専門性と豊かな学識を修得することができるよう、広範な学問分野を包含した編成となっています。研究群には学位プログラムを置き、多様な分野の教員が協働して授業と研究指導を行います。

また、早期修了制度や長期履修制度、社会人のための夜間大学院や昼夜開講制、他の研究機関との連携による連携大学院・協働大学院方式等を積極的に進め、教育内容・方法の高度化・多様化を図っています。

人文社会ビジネス科学学術院

人文社会科学研究群

人文学学位プログラム	M	D
国際公共政策学位プログラム	M	D
国際日本研究学位プログラム	M	D

ビジネス科学研究群

法学学位プログラム	M	D
経営学学位プログラム	M	D

<専門職学位課程>※1

法曹専攻(法科大学院)	P
国際経営プロフェッショナル専攻	P

理工情報生命学術院

数理物質科学研究群

数学学位プログラム	M	D
物理学学位プログラム	M	D
化学学位プログラム	M	D
応用理工学学位プログラム	M	D
国際マテリアルズイノベーション学位プログラム	M	D

システム情報工学研究群

社会工学学位プログラム	M	D
サービス工学学位プログラム	M	
リスク・レジリエンス工学学位プログラム	M	D
情報理工学位プログラム	M	D
知能機能システム学位プログラム	M	D
構造エネルギー工学学位プログラム	M	D
エンパワーメント情報学プログラム		5D
ライフイノベーション(生物情報)学位プログラム	M	D

生命地球科学研究群

生物学学位プログラム	M	D
生物資源科学学位プログラム	M	
農学学位プログラム		D
生命農学学位プログラム		D
生命産業科学学位プログラム		D
地球科学学位プログラム	M	D
環境科学学位プログラム	M	
環境学学位プログラム		D
山岳科学学位プログラム	M	
ライフイノベーション(食料革新)学位プログラム	M	D
ライフイノベーション(環境制御)学位プログラム	M	D
ライフイノベーション(生体分子材料)学位プログラム	M	D

<外国の大学との国際連携教育課程>※1

国際連携持続環境科学専攻	M
--------------	---

人間総合科学学術院

人間総合科学研究群

教育学学位プログラム	M	D
心理学学位プログラム	M	D
障害科学学位プログラム	M	D
カウンセリング学位プログラム	M	
カウンセリング科学学位プログラム		D
リハビリテーション科学学位プログラム	M	D
ニューロサイエンス学位プログラム	M	D
医学学位プログラム		4D
看護科学学位プログラム	M	D
フロンティア医科学学位プログラム	M	
公衆衛生学学位プログラム	M	

ヒューマン・ケア科学学位プログラム	D
パブリックヘルス学位プログラム	D
スポーツ医学学位プログラム	D
体育学学位プログラム	M
スポーツ・オリンピック学学位プログラム	M
体育科学学位プログラム	D
コーチング学学位プログラム	D
スポーツウエルネス学学位プログラム	M D
芸術学学位プログラム	M D
デザイン学学位プログラム	M D
世界遺産学学位プログラム	M D
情報学学位プログラム	M D
ヒューマンバイオロジー学位プログラム	5D
ライフイノベーション(病態機構)学位プログラム	M D
ライフイノベーション(創薬開発)学位プログラム	M D

＜他大学との共同教育課程＞※¹

スポーツ国際開発学共同専攻	M
大学体育スポーツ高度化共同専攻	D

＜外国の大学との国際連携教育課程＞※¹

国際連携食料健康科学専攻	M
--------------	---

グローバル教育院

グローバル教育院は、本学が独自に開設する学術分野横断的な学位プログラムの運営を行います。現在、学士課程と大学院課程に各1プログラムがあります。

地球規模課題学位プログラム	B
ヒューマニクス学位プログラム (卓越大学院プログラム)※ ²	5D

【凡例】

B	：学士課程
M	：修士課程または博士前期課程
D	：博士後期課程または3年制博士課程
5D	：5年一貫制博士課程
4D	：医学を履修する博士課程(4年制)
P	：専門職学位課程

※¹ 専門職学位課程、外国の大学との国際連携教育課程、他大学との共同教育課程については、専攻として学術院の下に設置

※² 大学独自の強みを核に、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程プログラム



UTMy (ユーティー・マイ) = 筑波大学マレーシア校の挑戦

マレーシアで体现される多文化共修と国際人育成



筑波大学マレーシア校（通称：UTMy = ユーティー・マイ）は、海外で初めて日本の学位を授与する大学として、2024年9月、クアラルンプール（KL）に開校しました。新たに開設された学際サイエンス・デザイン専門学群（School of Transdisciplinary Science and Design）に、現地マレーシアの学生のみならず、留学生として日本人の学生も入学しました。マレーシアと日本の学生が、英語、日本語、マレー語、時には中国語も交えながら語り、共に学ぶ、多文化共修が体现されています。我が国とマレーシアとの間には、長年、友好的な協力関係が培われてきました。UTMy は、まさに、両国の友好関係を象徴するような、学びの場となっています。

地球規模課題解決に貢献する人材の育成を目的とする UTMy において、経験豊かな真の国際人から直接お言葉をいただける機会は、何よりも大事な経験です。2025 年 3 月には、在マレーシア日本国大使館、四方敬之特命全権大使より、日本とマレーシアを中心とした最新の国際情勢に関する貴重な特別講義を賜りました。また、マレーシア日本人商工会議所（JACTIM）澤村剛朗会頭（三井住友海上（MSIG）マレーシア 副 CEO、当時）や星合大クアラルンプール日本人会長（伊藤忠マレーシア社長）をはじめとする、社会の最前線で活躍するビジネスマンの方々より、「社会と授業」と題した授業の中で、示唆に富むご講義を賜りました。現地日本人コミュニティからの多大なる支援の下、UTMy では、良き国際人となるための学びが実践されています。

常設 PBL で“学ぶことを学ぶ”

UTMy では、人文社会科学から自然科学にわたる幅広い教養に加えて、しっかりしたデータサイエンスのスキルを身に付けるカリキュラムが展開されています。これらの教養とスキルを糧として、智の創造力を身に付けるために、課題解決型学修（Problem Based Learning: PBL）を中心に据えている点は、UTMy における学びの最大の特徴と言えます。PBL はアクティブラーニングの一種で、学生自らが問題を設定し、その解決策を考えるという形で学んでいきます。このような学びでは、解決の結果得られた成果物自体よりも、問題設定や解決の過程の中で自ら新しいことを学ぶ、すなわち、“学ぶことを学ぶ”ことに価値があります。UTMy では、1 年生から 4 年生まで、一年中、常に PBL の授業を行います。1 年目の PBL では、知的なシステム、ジェンダー、健康、教育の幅広いトピックが順次取り上げられ、各学生は 1 年をかけて、すべての課題に挑戦しました。このような幅広く徹底した PBL 中心のカリキュラムは、世界中を探してもなかなか見当たらない、非常に珍しい実践です。UTMy が誇る常設 PBL により、学生は自ら学ぶ能力を身に付け、前例のない地球規模課題に挑戦し続けていく力を養うことができます。UTMy では、JACTIM Foundation（JACTIM 基金）からの支援の下、JACTIM Foundation Excellence Award が設置されています。この Award では、JACTIM 鳴釜宏充会頭（マレーシア三井物産社長）および岡部養明理事（東京海上生命保険マレーシア Deputy CEO）にもご協力いただき、1 年間で一番うまく学んだ学生「Excellent Learners」が選ばれ、表彰されました。このような取り組みにより、“学ぶことを学ぶ”ことの重要性を伝えています。



UTMy の 1 期生が示し始めた行動力と創造性

激動する社会の中で、継続して学びながら、社会の諸問題に果敢に取り組む行動力のある人材が求められています。修得した知識を単に活用するだけでなく、今まで誰も取り組んだことのない新たな課題を自ら見出し、その解決策を創造していくことが求められます。UTMy の 1 期生は、すでに、スポーツイベントや新入生を迎えるネットワーキングイベントを主体的に企画・実施し、また、自主的な PBL を教員に披露するなど、積極的な行動力と創造性を示し始めています。UTMy における新しい学びにより、世界の最先端を知覚しながら、その先を予測し、地球規模課題に対して果敢に行動するリーダーが育成されることを確信しています。





高い専門性と広い視野をもつ研究者が分野をこえて協働し、個人の興味関心に根ざした自由な発想のもと、情熱をもって真摯に真理を探究します。伝統的な学問分野の研究を推進するとともに独創性のある研究分野を開拓します。

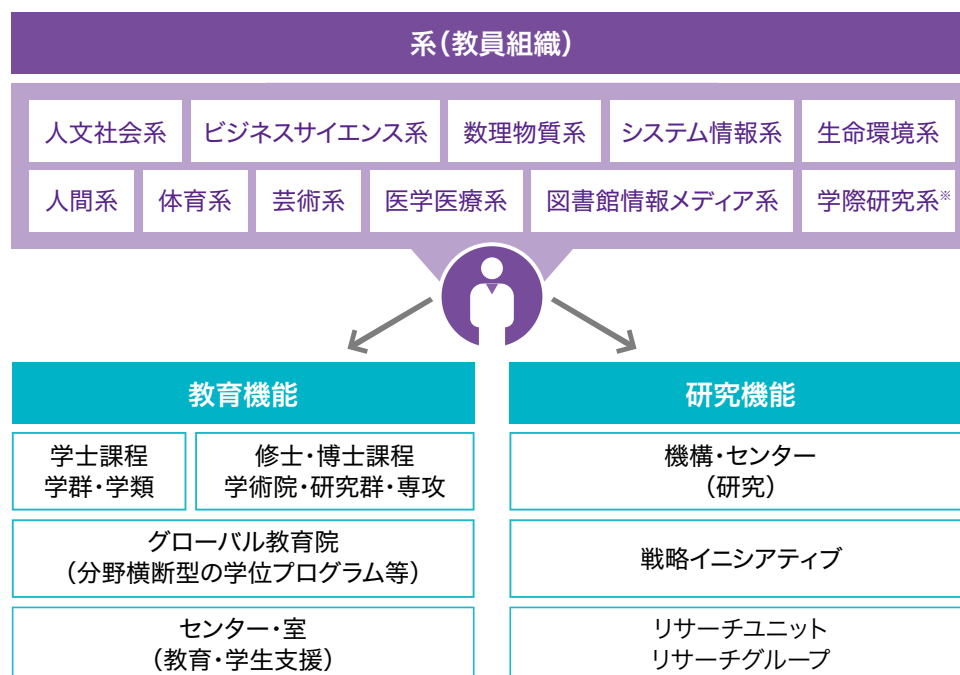
筑波大学は、人文社会、理工、情報、生命、医学だけでなく、人間、図書館情報、体育、芸術にもわたる幅広い学問分野をもつ、他に類をみない総合研究大学です。この強みを活かし、既存の学問領域の壁を超え自由な発想のもと、イノベーションの源泉ともいえる、学問領域の掛け合わせによる融合を推進してきました。そのもとで、研究の質の向上に加え、中長期的に腰を据えて基礎研究に注力できる研究環境や、新しい研究組織が次々に生まれるような深い専門性をもつ研究者が交流できる環境の整備を充実させる必要があると考えています。研究成果の社会への実装の加速も不可欠であり、筑波研究学園都市を大規模な挑戦的社会的実験の場（チャレンジフィールド）として活用しさまざまな実験・社会実装を展開する、新たな研究学園都市モデルを構築したいと考えています。

教員組織「系」

多様化・高度化する教育研究のニーズに的確に対応していくため、教員の所属組織と個々の教育研究組織の編成の在り方を区別した新たな教育研究体制として、独自の教員組織「系」を設置しています。

教員は基本的に「系」に所属し、基盤的な研究を行いつつ、学群・学類、学術院・研究群・専攻、センター等、それぞれの教育研究組織の目的に即した教育研究を担います。

教員の所属組織を個々の教育研究組織から独立させることにより、異なる分野の教員が参画する学際融合・領域横断的な教育研究や、新たな教育研究プログラムの創出を柔軟に行っています。



※ 計算科学研究センターおよび生存ダイナミクス研究センターに所属する大学教員を中心に構成され、従来の学問分野の枠を超えた学際研究を推進する教員組織です。

好奇心を解き放つ。未知に挑む。筑波大学高等研究院の挑戦

筑波大学高等研究院は、研究者による研究者と社会のための研究組織です。世界最高水準の研究成果を持続的に生み出し、新しい研究を創生する研究環境を構築することにより、世界における知のフロンティアの開拓と新たな価値創造に貢献することを目的として令和6年12月1日に設置されました。

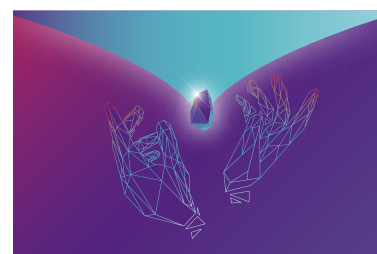
高等研究院は筑波大学の研究戦略や国の重点戦略分野に基づき、次の役割を担っています。

- ①「自発研究ユニット」を設置し、若手・中堅研究者が研究に専念できる最適な研究環境を提供する。
- ②「社会と科学の研究ユニット」を設置し、あらゆる科学技術分野に対し、人や社会に関わる視点を加える。
- ③ 参画センター※の機能をより一層強化する。

※ 参画センター：筑波大学の重点研究分野を担う世界最高水準の研究を遂行することが期待される研究組織。

- 国際統合睡眠医科学研究機構（IIS）
- 人工知能科学センター（C-AIR）
- 微生物サステナビリティ研究センター（MiCS）
- ホウ化水素研究センター（HBRC）

高等研究院では、研究者が知的な好奇心と高い倫理観にもとづいて自由に挑戦し、多様な分野の知をつながげながら、新たな学術価値を生み出す環境を整えていきます。大学全体のリソースと知見を結集し、研究者と組織の自律的な成長、新たな研究分野の創出を後押しすることで、国際的に卓越した成果を生み出し、日本の国際競争力の向上と社会の変革に貢献します。

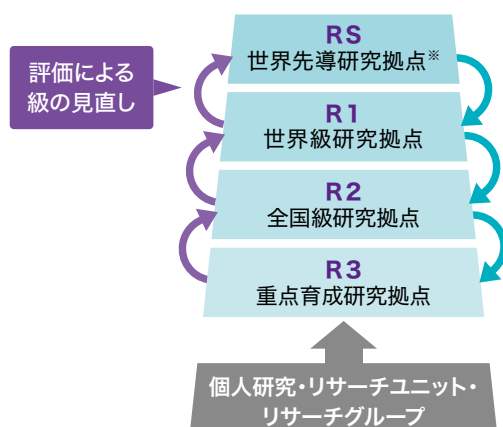


ウェブサイト▲

<https://tiar.centers.tsukuba.ac.jp/>

研究の成長ステージに応じた効果的な研究推進体制「研究循環システム」の運用

研究全体の新陳代謝を活性化させるため、研究センターを機能別（先端研究センター群、研究支援センター群）に分類し、先端研究センター群については、RS：世界先導研究拠点、R1：世界級研究拠点、R2：全国級研究拠点、R3：重点育成研究拠点到に級別の認定を行い、重点的かつ戦略的な資源配分を行っています。また、各研究センターを5年ごとに評価（3年目に中間評価）し、センターの研究活動の活性化に資する評価システムを確立しています。国際的に卓越した研究拠点の形成と新分野の創出を推進するために新たに設けた最上級RS（世界先導研究拠点）の評価認定を2022年度に行い、文部科学省・世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の採択実績がある「国際統合睡眠医科学研究機構（WPIアカデミー採択拠点）」が2023年4月1日からRSとなりました。



機能別分類	先端研究センター群	研究支援センター群
級別分類	RS 世界先導研究拠点※	級別分類は行わない
	R1 世界級研究拠点	
	R2 全国級研究拠点	
	R3 重点育成研究拠点	

※ 2022年2月設置

先端研究センター群と研究支援センター群

RS（世界先導研究拠点） 1 組織

国際統合睡眠医科学研究機構



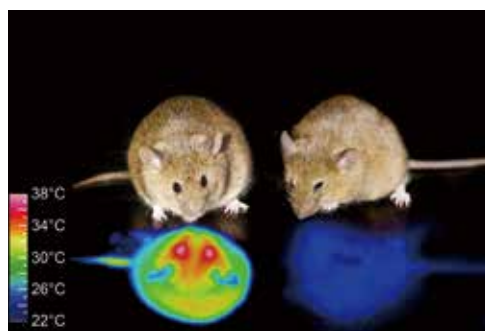
ウェブサイト▲

<https://wpi-iiis.tsukuba.ac.jp/japanese/>

機構長 柳沢 正史

誰もが人生の三分の一近くを費やす睡眠。それにもかかわらず、眠りの正体は謎に包まれています。本機構の柳沢正史機構長らは、睡眠と覚醒の制御において重要な役割を果たす新規神経ペプチド「オレキシン」を発見し、その働きを世界に先駆けて示すとともに、睡眠学・代謝学の新たな研究領域を切り開いてきました。

分子遺伝学・神経科学・生理学等の基礎生物学をはじめ、データ工学、創薬科学、ヒト睡眠生理学、臨床心理学等の研究者たちが、睡眠の謎を解明する革新的な研究を行っています。



R1（世界級研究拠点） 2 組織

計算科学研究センター



ウェブサイト▲

<https://www.ccs.tsukuba.ac.jp/>

センター長 重田 育照

「計算科学」とは、さまざまな科学現象の仕組みを計算機シミュレーションを中心とした手法によって解明し、従来の「理論」と「実験」だけでは解き得ない課題に挑む第三のアプローチです。本センターでは、独自に開発したスーパーコンピュータ PACS/PAX シリーズを活用し、科学の諸領域における超高速シミュレーションや大規模データ解析に加えて、企業との共同研究を通じた技術の社会実装にも取り組んでいます。また、超高速計算機システム・ネットワーク技術の開発とその応用方法の研究も推進しています。



■ 生存ダイナミクス研究センター



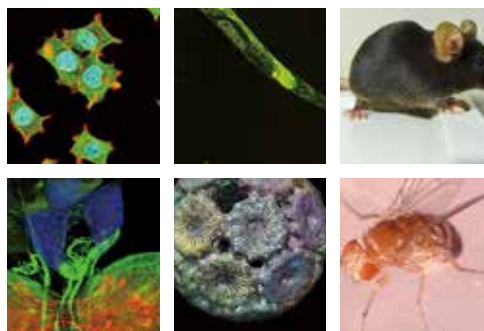
ウェブサイト▲

<https://www1.tara.tsukuba.ac.jp/>

センター長 柳沢 裕美

生命の生存・適応・共生・進化を支える基盤的メカニズムの解明を目指し、「代謝」「循環」「生殖」「生理」「構造」の各テーマを互いに横断し、統合ゲノミクスや計算科学的手法との融合を通じ、in silico 生命科学へとシームレスに繋がる研究体制の下で個体から集団レベルを含めた生命動態科学研究を推進しています。

医学・生物学・農学・薬学・健康科学等が相互に連携するダイナミックな研究体制のもと、生命の未知なる部分を解明し、生物の潜在的な生存戦略を発掘していきます。



R2 (全国級研究拠点) 10 組織

- つくば機能植物イノベーション研究センター
- 放射線・アイソトープ地球システム研究センター
- 下田臨海実験センター
- 人工知能科学センター
- プラズマ研究センター
- 微生物サステナビリティ研究センター
- 地中海・北アフリカ研究センター
- ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター
- サイバニクス研究センター
- 陽子線医学利用研究センター

R3 (重点育成研究拠点) 7 組織

- 西アジア文明研究センター
- 宇宙史研究センター
- エネルギー物質科学研究センター
- ホウ化水素研究センター
- 山岳科学センター
- トランスポーター医学研究センター
- サイバーメディスン研究センター

研究支援センター群 2 組織

- 研究基盤総合センター
- 学術情報メディアセンター

産学連携



超大型国際産学共同研究の獲得

国際的なプレゼンスの向上

- 筑波大学、ワシントン大学、NVIDIA 社、Amazon 社による AI 分野における国際産学連携の枠組み
- 2024 年 4 月、2 大学、2 社が米国商務省（ワシントン DC）で調印式を実施
- Amazon 社と NVIDIA 社からの支援総額 約 **75 億円** 規模 / 10 年間
- テーマ 研究開発、人材育成、アントレプレナーシップ、社会実装
- 日米首脳会談における共同声明に反映
- 2025 年 4 月、筑波大学（東京キャンパス）にてキックオフセレモニー開催



ワシントンDCでの調印式

- ✓ 研究力強化
 - ✓ 人材育成
 - ✓ 研究成果の社会実装
- いずれにもわたる
顕著な取組



東京キャンパスでのキックオフセレモニー

成果の基となった取組

日米の大学及び民間企業による日米デジタルハブワークショップへの参画
(2015 年～)

学内の多様な分野の研究グループが参画する人工知能科学センターを設置
(2017 年～)

パートナーシップの内容

■ 先端的な AI 研究開発

グローバルな社会課題解決に向けて、次世代 AI に求められる信頼できる AI・プライバシーを守る AI 等の基盤的な AI 研究の推進、および高齢化社会、生産性向上、気候変動、防災等の社会課題解決をテーマとする応用分野の AI 研究を中心に実施

■ 高度 AI 研究人材育成

学生の研究プロジェクトへの参加や夏期人材育成プログラム、アントレプレナーシップ・ブート・キャンプなどにより、グローバルな視点を備えた高度 AI 研究人材を育成

■ AI 国際連携ハブの構築

国際的な産学連携体制による分野横断的な協働を推進し、本パートナーシップをコアとして国際的な AI 連携ハブの構築を目指す

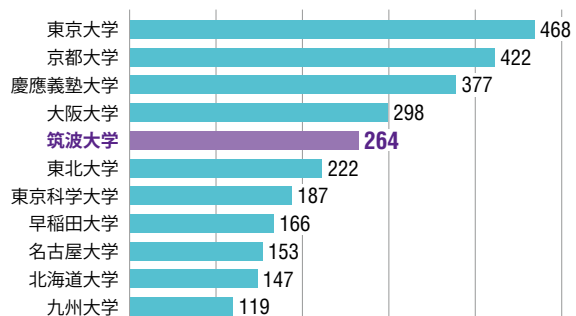
筑波大学発のベンチャー企業

筑波大学は全国の大学の中でもトップクラスのベンチャー設立実績があります。

■ 主な筑波大学発ベンチャー企業

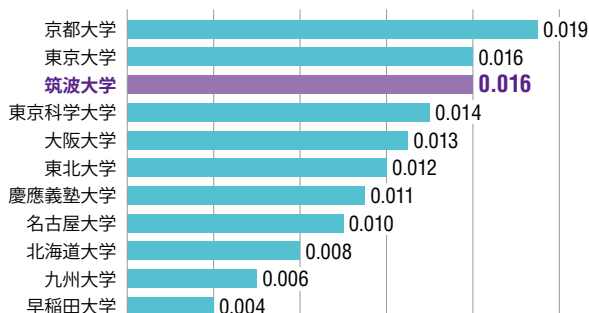
S'UIMIN	研究開発向けの睡眠計測サービス
CYBERDYNE	先端技術を活用した医療福祉機器・システム等の研究開発・製造・販売
フラー	デジタルパートナー事業
Closer	中小規模の工場を低コスト・省スペースで自動化するロボット
Qolo	起立リハビリ機器と、立って移動する機器の実用化
FullDepth	300m 潜航可能な産業用水中ドローン

大学発ベンチャー企業数 (RU11)



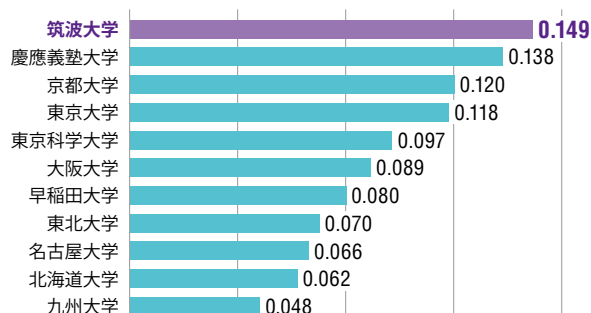
出典：経済産業省 大学発ベンチャー実態等調査報告書（2024年度）

学生一人当たりベンチャー企業 (RU11)



出典：〔ベンチャー企業数〕経済産業省 大学発ベンチャー実態等調査報告書（2024年度）
〔学生数〕学校基本調査または大学ポートレート（ともに2024年度）

教員一人当たりベンチャー企業 (RU11)



出典：〔ベンチャー企業数〕経済産業省 大学発ベンチャー実態等調査報告書（2024年度）
〔教員数〕学校基本調査または大学ポートレート（ともに2024年度）

開発研究センターの推進

本学の学際的な研究総合力を次世代産業創生に活かす場を構築するための制度として、開発研究センターを整備しています。このセンターは外部資金のみで運営され、大学のミッションである社会貢献を担う組織として、イノベーション創出、企業の優秀な人的リソースの導入、研究のスピードアップ、産学連携・起業意識の高い人材の育成を目的としており、社会的要請の高い学問分野での企業との共同研究開発を積極的に推進し、協働研究体制を構築しています。多様な分野の研究者による産学共同研究を展開し、Society5.0の実現やSDGsの達成に向けて、開発研究センターを中心に積極的に貢献していきます。開発研究センターは学内施設に置き、期間は設置から5か年度で、評価結果により更新が可能となっています。

プレジジョン・メディシン開発研究センター

日本初の精密医療の
社会実装に向けた
包括的オミックス解析拠点



佐藤孝明センター長



イノベティブ計測技術開発研究センター

革新的計測評価技術の
開発研究を目指して



伊藤雅英センター長



未来社会工学開発研究センター

Society 5.0を実現する
モビリティ概念の拡張と
未来社会創造



山海嘉之センター長



革新的創薬開発研究センター

新薬、新技術で、活力ある
100年の人生を



澁谷彰センター長



スポーツイノベーション開発研究センター

スポーツを通じた
Well-being向上を
実現するための
最先端研究



高木英樹センター長



デジタルネイチャー開発研究センター

計算機と自然の
新しい関係性を探求



落合陽一センター長



ヘルスサービス開発研究センター

健康・幸福をもたらす
サービスの学問に特化した
日本初の拠点



田宮菜奈子センター長



スマートウェルネスシティ政策開発研究センター

健康長寿社会実現に向けた
エビデンスに基づく
政策化を目指して



久野譜也センター長



テラーメイドQOLプログラム開発研究センター

食と運動と睡眠を通して
一人一人にQOLを向上する
プログラムを提供



磯田博子センター長



健幸ライフスタイル開発研究センター

次世代につなげる健康で
幸せなライフスタイルを探求

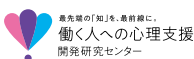


吉本尚センター長



働く人への心理支援開発研究センター

働く人への
心理支援に関する研究と
社会貢献体制を整備した
開発研究センター



岡田昌毅センター長



設置期間満了により終了したセンター

- 藻類バイオマス・エネルギーシステム開発研究センター
(平成27年7月1日～令和3年3月31日)
- 健幸イノベーション開発研究センター
(令和2年7月1日～令和5年8月31日)
- ゼロCO₂エミッション機能性材料開発研究センター
(令和4年4月1日～令和7年9月30日)

附属図書館・附属病院・附属学校

附属図書館

附属図書館は、中央図書館と4つの専門図書館（体育・芸術図書館、医学図書館、図書館情報学図書館、大塚図書館）で構成され、本学の学術情報基盤を支えており、学内外の多くの利用者に活用されています。図書・雑誌に加え、電子ジャーナル・ブック、データベースを計画的に整備し、膨大な資料群と最新学術情報へのアクセスを可能にしています。こうした館内資料を利用した授業やグループ学習、芸術作品や研究成果の発表に活用できる空間も用意されています。また、所蔵する貴重資料の特別展・企画展を開催しています。レファレンスサービスや講習会に加え、中央図書館ではラーニング・アドバイザー（大学院生）による学習サポートやセミナー、ボランティアによる案内も提供しています。



附属病院

附属病院は、大学病院に課せられた「診療・教育・研究」の3つの役割を果たすべく、高度医療の提供、優れた医療人の育成と、次世代医療の開発に取り組んでいます。

「良質な医療を提供するとともに、優れた人材を育成し、医療の発展に貢献すること」を理念として掲げ、特定機能病院および医育機関として茨城県の医学・医療をけん引しています。また、県内唯一の高度救命救急センター、災害拠点病院、脳卒中・心臓病等総合支援センターなどの指定を受け、茨城県のよりよい広域医療体制、地域医療連携システムの構築にも貢献しています。

特定機能病院としてのさらなる機能強化を図るとともに、財政基盤の確立に努めつつ、指定国立大学のひとつである筑波大学の附属病院として、特定臨床研究、産官学共同研究、先端的医学教育、高難度医療、国際連携活動などの充実と発展に注力します。ここに集った志高き医療人が心をひとつにして、“Heartfelt Hospital”として患者第一の心のこもった高度医療を展開してまいります。



附属学校

附属学校を統括・調整する附属学校教育局と、附属学校（全 11 校）は、普通教育と特別支援教育の対象となる幼児・児童・生徒の教育・保育に関する実践的研究を推進しています。



学 校 名	特 色
附属小学校 (東京都文京区)	- 教科担任制(32人クラス編成)による指導 - 学習公開・研究発表会(年2回、延べ5千人)での研究成果の発信
附属中学校 (東京都文京区)	「言語活動」「体験学習」を重視した教科指導 - 生徒がーから創り上げる学校行事(富浦臨海学校、発表会)
附属高等学校 (東京都文京区)	- 基礎基本の習得を徹底する教科教育、バランスのとれた教育課程 - 生徒中心の学校行事・学年行事(文化祭、スポーツ大会)
附属駒場中・高等学校 (東京都世田谷区)	- 国内唯一の国立大学附属の中高一貫男子校、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)校(平成14年度～) - 学校行事を通じた創造性とリーダーシップの育成(音楽祭、体育祭、文化祭、水田稲作)
附属坂戸高等学校 (埼玉県坂戸市)	- 総合学科のパイオニア(平成6年度～)、国際バカロレア認定校(平成28年度～)、ワールド・ワイド・ラーニング(WWL)事業拠点校 - 探求学習を中心とした教育課程
附属視覚特別支援学校 (東京都文京区)	- 国内唯一の国立大学附属の視覚特別支援学校 - 様々な感覚を用いた学習手段の獲得 - 国際交流、ICT活用、アスリート育成を通じた自己実現
附属聴覚特別支援学校 (千葉県市川市)	- 国内唯一の国立大学附属の聴覚特別支援学校 - 確かな日本語の獲得、教科学習及び生涯教育に関わる実践と研究
附属大塚特別支援学校 (東京都文京区)	- 知的障害特別支援学校におけるモデル的教育課程開発 - 職業教育施設(えがおカフェ)の活用、日本人学校への遠隔支援等の取組
附属桐が丘特別支援学校 (東京都板橋区)	- 国内唯一の国立大学附属の肢体不自由特別支援学校 - 個別の指導計画に基づく各教科等及び自立活動の指導、遠隔合同授業マッチングサイトの運営と遠隔合同授業の実施
附属久里浜特別支援学校 (神奈川県横須賀市)	- 国内唯一の知的障害を伴う自閉症児を対象とした特別支援学校 - 自閉症教育実践研究協議会の開催

関 連 組 織 名	特 色
附属学校教育局 (東京都文京区)	- 学校教育に関する実践的研究を行うとともに、附属学校11校を管理 - ワールド・ワイド・ラーニング(WWL)事業の推進、インクルーシブ教育の実践、朝永振一郎記念「科学の芽」賞の実施 - 心理・発達教育相談室の運営、特別支援教育連携推進グループの設置
理療科教員養成施設 (東京都文京区)	- 全国の視覚特別支援学校で理療を教える教員を養成する国内唯一の施設 - 視覚障害のある教員、学生が多数在籍 - 鍼灸治療室の運営(令和6年度利用者数3,081人)



学習公開・研究発表会
(附属小学校)



小学部公開授業
(附属聴覚特別支援学校)



附属学校群三浦交流行事
(附属学校教育局)

IMAGINE THE FUTURE.



筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学概要

筑波大学広報局

〒305-8577

茨城県つくば市天王台 1-1-1

2026 年 2 月発行



www.tsukuba.ac.jp